

2004年12月期

決算説明会資料

2005年2月

二ス力株式会社

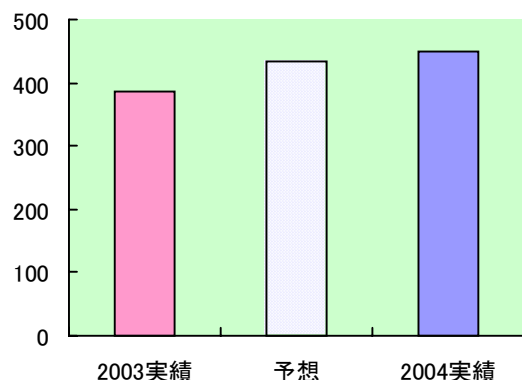
1. 2004年決算ハイライト

増収増益。利益は過去最高を達成。

	2003年12月 実績	2004年7/27 予想	2004年12月実績
売上高	38,550 百万円	43,300 百万円	44,929 百万円
営業利益	2,815 百万円	3,800 百万円	4,084 百万円
当期純利益	1,887 百万円	2,400 百万円	2,758 百万円

売上高

(億円)



【前期比 6,379 百万円増 (+16.5%)】

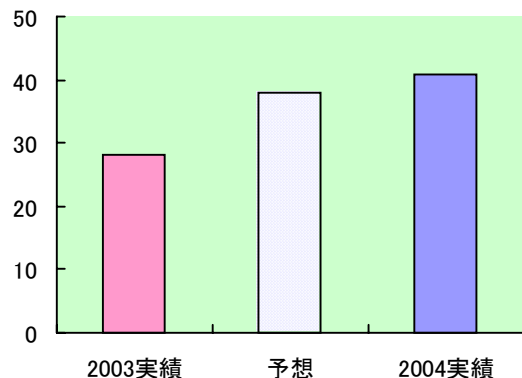
OAセグメント(PH事業・SC事業)のカラー機及びMFP対応の需要が大幅増加

【予想比 1,629 百万円増 (+3.8%)】

OAセグメント(PH事業・SC事業)のカラー機及びMFP対応の需要が予想を上回る。

営業利益

(億円)



【前期比 1,269 百万円増 (+45.1%)】

売上増

光学セグメントの改善

機種構成の変化(高付加価値商品の増加)

固定費構造の改善

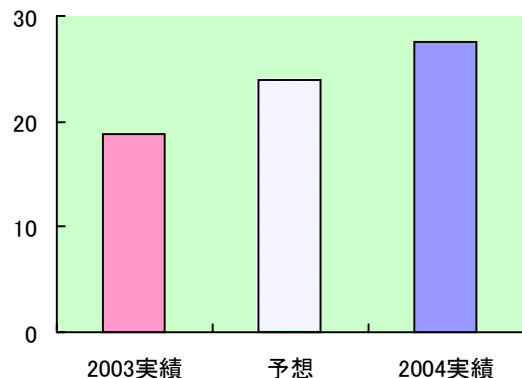
【予想比 284 百万円増 (+7.5%)】

売上増

高付加価値商品の増加

当期純利益

(億円)



【前期比 871 百万円増 (+46.1%)】

・売上増

(特別損益は前期比同水準)

【予想比 358 百万円増 (+14.9%)】

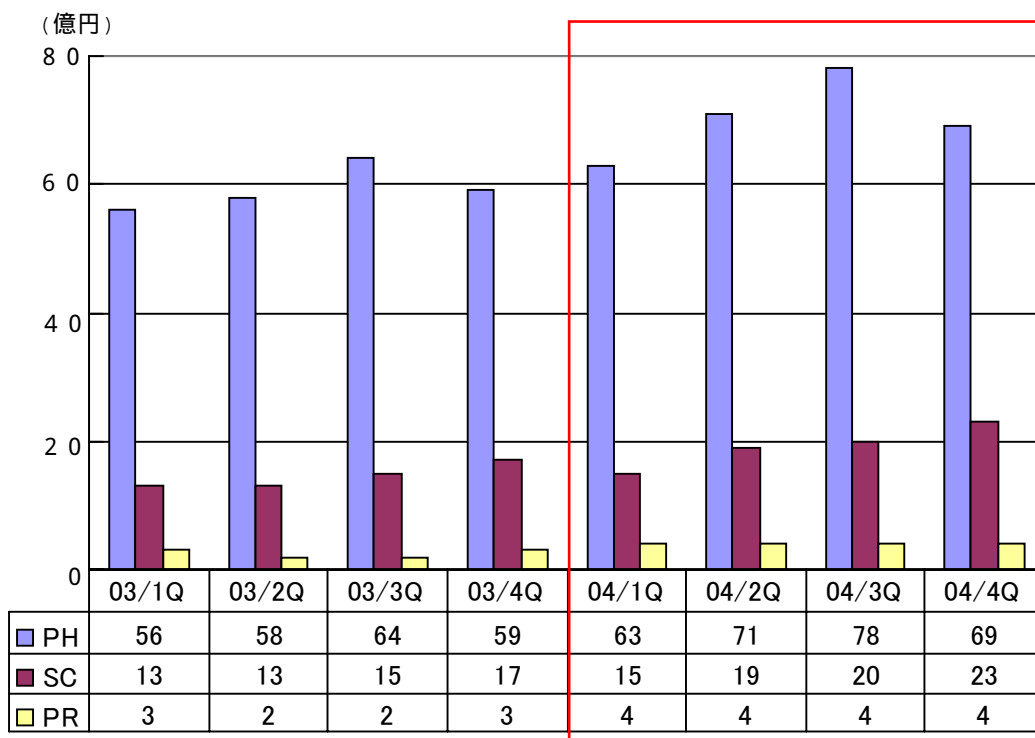
売上増

特別利益の増加(有価証券売却益)

2. セグメント別売上高

PH事業、SC事業の売上増

2-1. OAセグメント



【PH事業】(281億円、前期比44億円増、18.6%増)

カー機及びMFP対応機種の上増増加により2004年各四半期ともADF・フィニッシャが堅調

フィニッシャの上増増加が顕著であり、金額ベースでADFの2/3に上昇(前期は1/2)

2004年3Qは複写機メーカー各社からの受注増加により大幅増

2004年4Qは3Qの反動と一部機種の生産終了により3Qと比べ減少するが2Q並みを確認

【SC事業】(77億円、前期比19億円増、32.8%増)

プリンタのMFP対応機種の需要が着実に増加

ADF付仕掛けによる販売戦略が数量・金額増加に寄与

新規顧客の売上げが純増

【PR事業】(16億円、前期比6億円増、60.0%増)

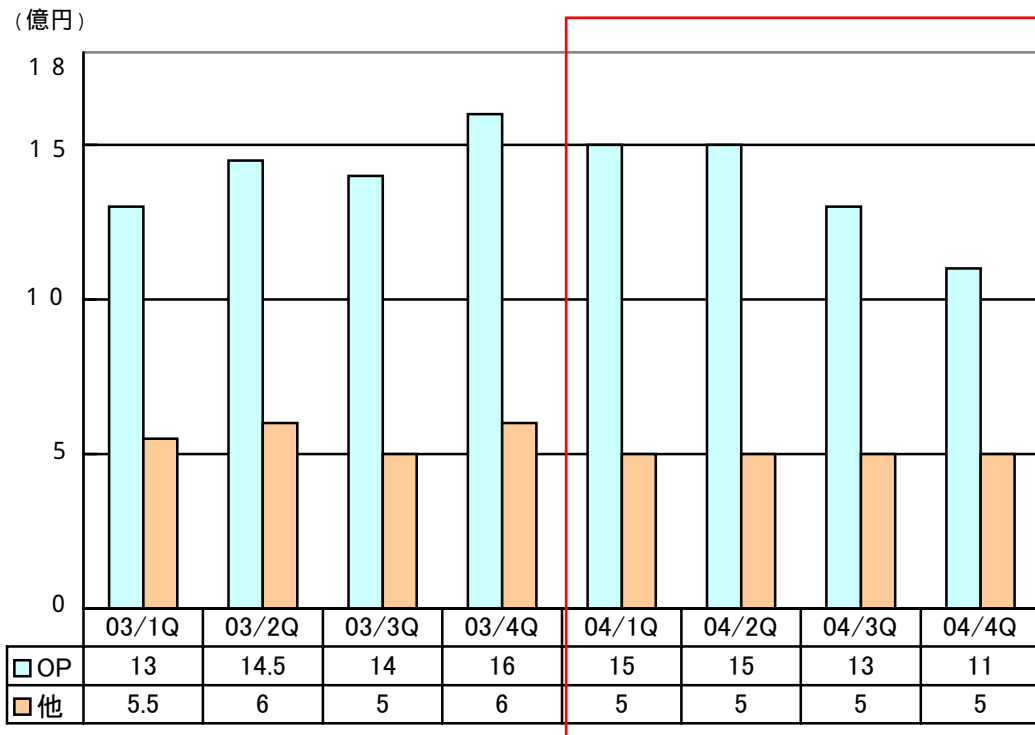
新規のOEM生産により売上げが増加(ニカブランドのカートプリンタは横這い)

(億円)

	03/Q1	03/Q2	03/Q3	03/Q4	03計	04/Q1	04/Q2	04/Q3	04/Q4	04計
OA合計	72	73	81	79	305	82	94	102	96	375

2 - 2 . 光学セグメント

ビデオカメラ用オートアイリスの売上減少



【OP事業】(54億円、前期比3.5億円減、6.1%減)

2004年上期はデジタルカメラ用シャッターの堅調により前年を上回る。

2004年下期は価格競争の激化によりビデオカメラ用オートアイリスを中心に減少。

2004年4Qは一部機種を終了および価格競争が厳しく、収益性重視のスタンスで売上減少幅が拡大。

【その他】(20億円、前期比2.5億円減、11.1%減)

上期数値の前年比減少は子会社(ニステック)の売却による。

(億円)

	03/Q1	03/Q2	03/Q3	03/Q4	03計	04/Q1	04/Q2	04/Q3	04/Q4	04計
光学合計	18.5	20.5	19	22	80	20	20	18	16	74

4. 四半期別 連結収益状況

営業利益、経常利益、当期純利益ともに過去最高を達成。

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通 期
粗 利 率	18.2% (19.7%)	18.1% (16.4%)	19.5% (17.4%)	16.4% (14.0%)	18.1% (16.8%)
販管費率	9.0% (9.6%)	8.9% (10.0%)	8.7% (8.8%)	9.4% (9.6%)	9.0% (9.3%)
営業利益	947 百万円 (915 百万円)	1,051 百万円 (597 百万円)	1,300 百万円 (858 百万円)	786 百万円 (444 百万円)	4,084 百万円 (2,815 百万円)
経常利益	983 百万円 (965 百万円)	1,124 百万円 (558 百万円)	1,338 百万円 (837 百万円)	699 百万円 (400 百万円)	4,146 百万円 (2,761 百万円)
特別損益	1 百万円 (651 百万円)	266 百万円 (142 百万円)	127 百万円 (61 百万円)	23 百万円 (45 百万円)	368 百万円 (402 百万円)
当期純利益	580 百万円 (899 百万円)	841 百万円 (244 百万円)	855 百万円 (450 百万円)	480 百万円 (293 百万円)	2,758 百万円 (1,887 百万円)

注.()内の数値は前期のものです。

【通 期】

売上増加、生産性の向上、付加価値の高い機種構成、固定費の圧縮により営業利益、経常利益、当期利益ともに過去最高。

前期、今期とも特別利益により当期利益が増加。主な内容は、

- ・03/1Q：厚生年金基金の代行返上
- ・04/2Q：厚生年金基金の解散
- ・04/3Q：有価証券売却益

【第3四半期】

PH事業の売上増加（ADF・ｽｷﾞｯﾁ）による営業利益増

OP事業の原価改善による営業利益増

【第4四半期】

PH事業の売上減少（3Qの反動および一部機種の終了）による営業利益の減少

OP事業の売上減少（価格競争の激化）による営業利益の減少

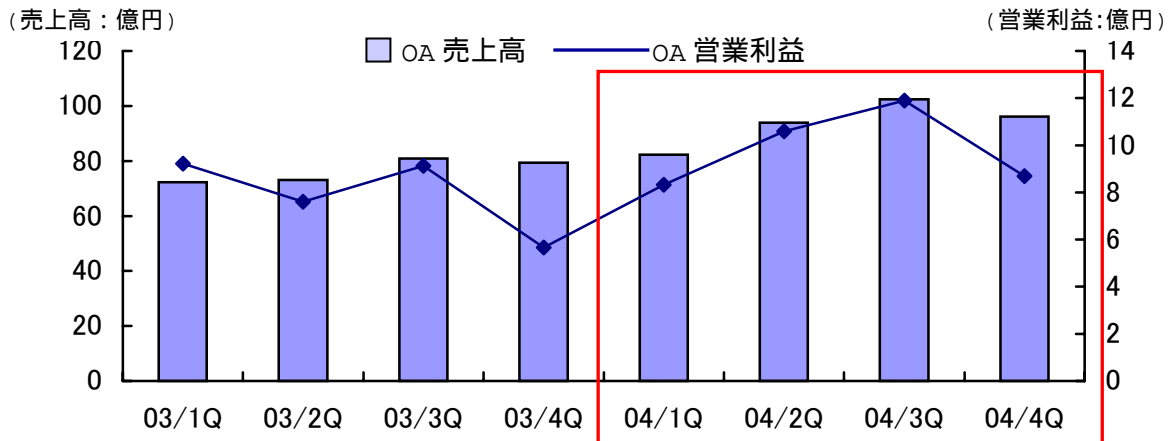
損失コストの発生（原価、販管費の上昇）

原材料価格の値上げによる原価の上昇

環境対策費用の発生（販管費の上昇）

5. 四半期別 セグメント営業利益（消去前）

5 - 1 . OAセグメント



通期では各事業とも売上げの増加に連動して営業利益も増加。

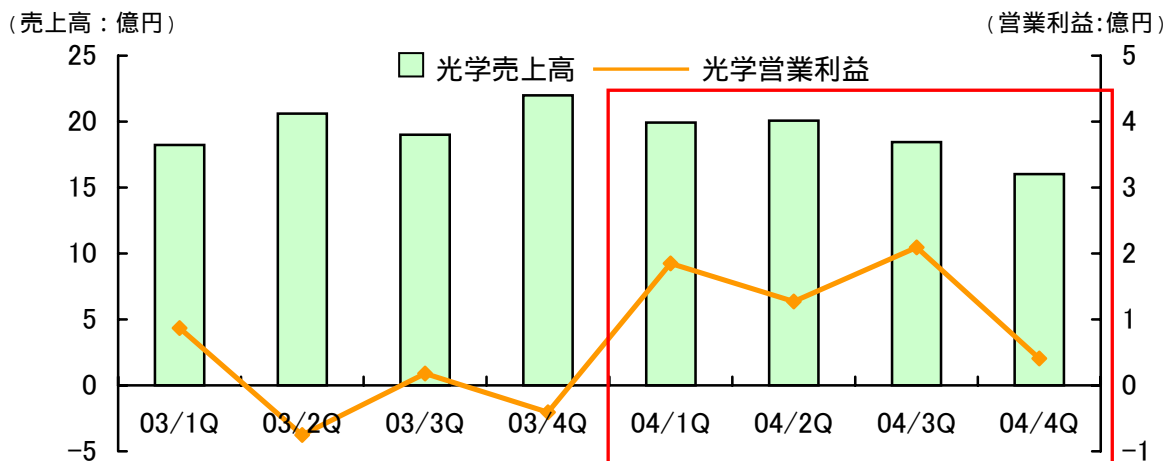
3Q は PH 事業・SC 事業とも増収となり営業利益が増加。

4Q 売上げおよび営業利益の減少要因は次のとおり。

- ・ 3Q の反動および一部機種を終了。
- ・ 損失コストが発生
- ・ 原材料価格の上昇

5 - 2 . 光学セグメント

光学セグメント営業利益の改善



通期では前期比売上げの減少にも拘らず営業赤字から大幅な黒字に転換。

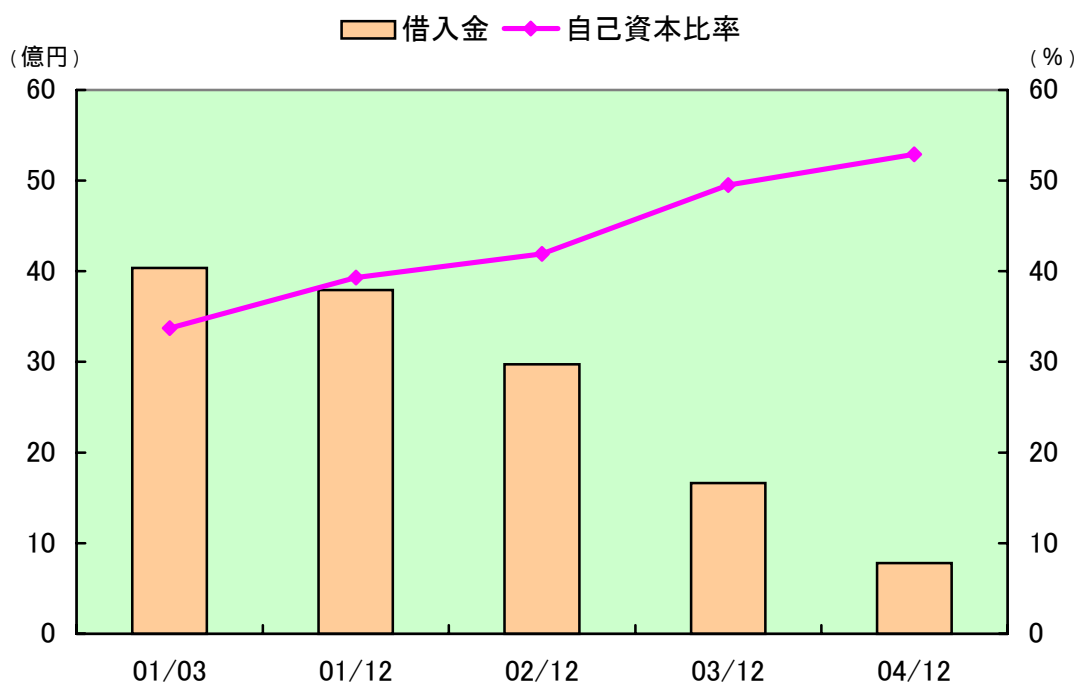
1Q～3Q の前期比改善理由は次のとおり。

- ・ 歩留まりの改善等による品質コストの削減
- ・ 原価の改善
- ・ 部品加工事業の改善

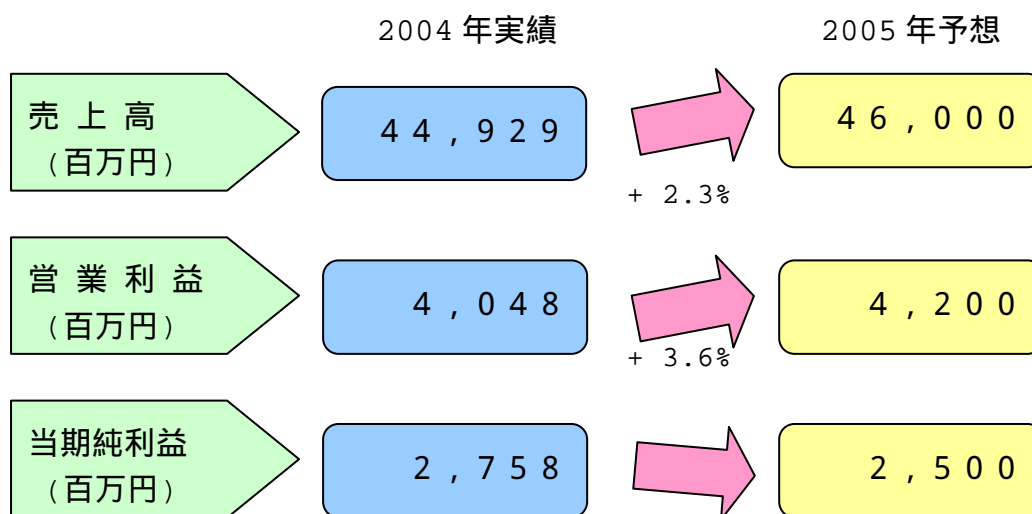
4Q は一部機種を終了および価格競争激化による売上減少が影響し、利益が減少。

6. 株主関係指標

	2002年12月	2003年12月	2004年12月
自己資本	11,153百万円	12,990百万円	15,593百万円
自己資本比率	41.9%	49.5%	52.9%
R O E	6.6%	15.6%	19.3%
借入金	2,971百万円	1,663百万円	781百万円
配当金	10円	13円	20円
配当性向	16.3%	7.2%	8.5%
単元数	1,000株	1,000株	100株
株主数	589名	628名	1,773名
年間出来高	299,000株	2,210,000株	1,789,200株



7. 2005年見通し

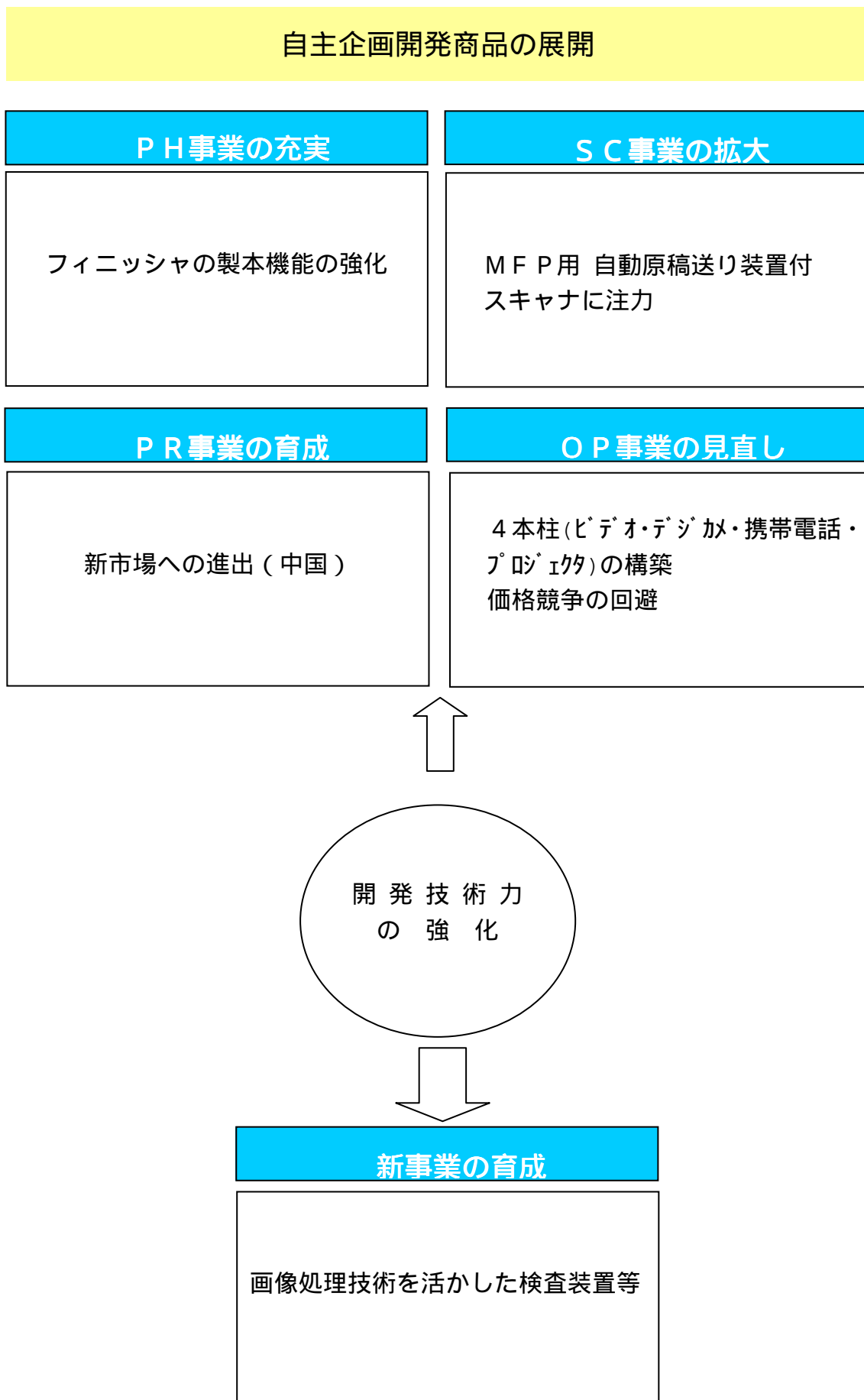


飛躍のための準備の年

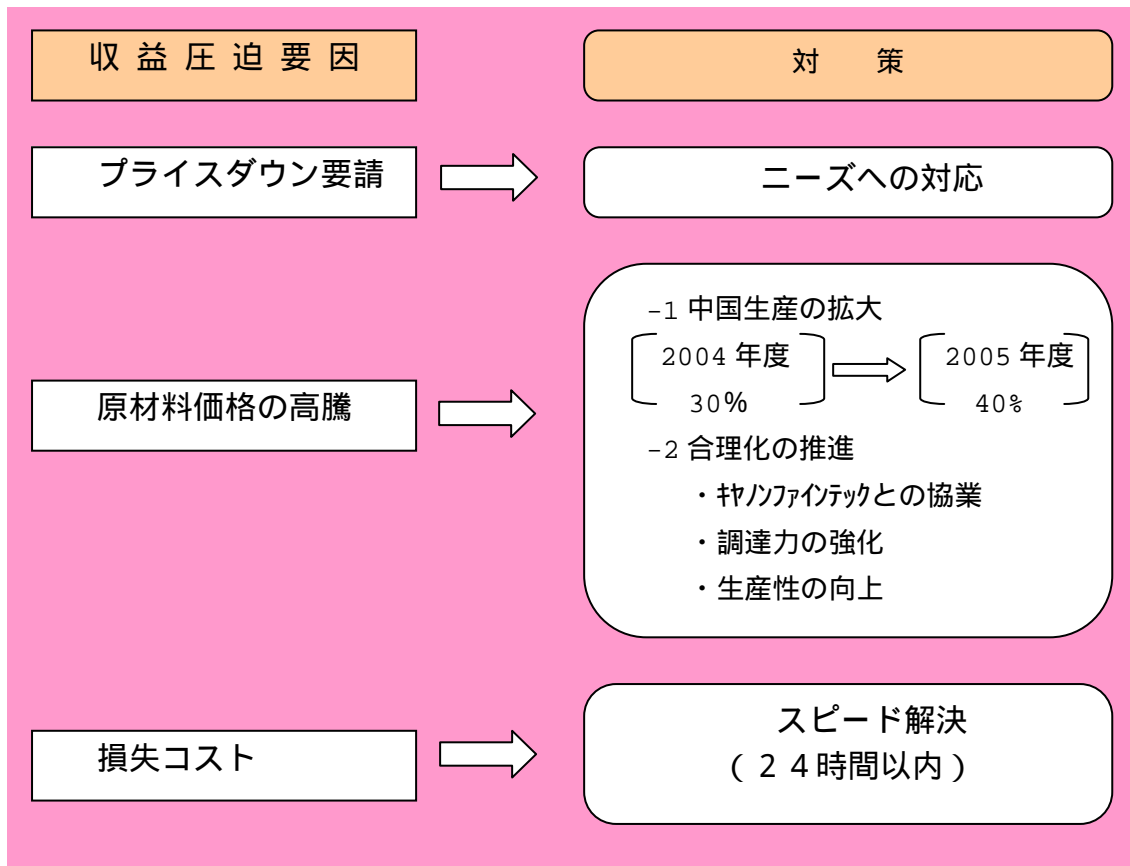
(単位：百万円)

	04上期	04下期	04通期	05上期	05下期	05通期
売上高	21,623	23,306	44,929	22,000	24,000	46,000
PH	13,400	14,700	28,100	14,100	14,100	28,200
SC	3,400	4,300	7,700	4,000	5,400	9,400
PR	800	800	1,600	1,000	900	1,900
OA計	17,600	19,800	37,400	19,100	20,400	39,500
OP	3,000	2,400	5,400	1,800	2,700	4,500
他	1,000	1,000	2,000	1,100	900	2,000
光学計	4,000	3,400	7,400	2,900	3,600	6,500
粗利率	18.2%	18.0%	18.1%	17.2%	18.2%	17.7%
営業利益	1,998	2,086	4,084	1,900	2,300	4,200
経常利益	2,108	2,038	4,146	1,900	2,300	4,200
当期純利益	1,423	1,335	2,758	1,200	1,300	2,500

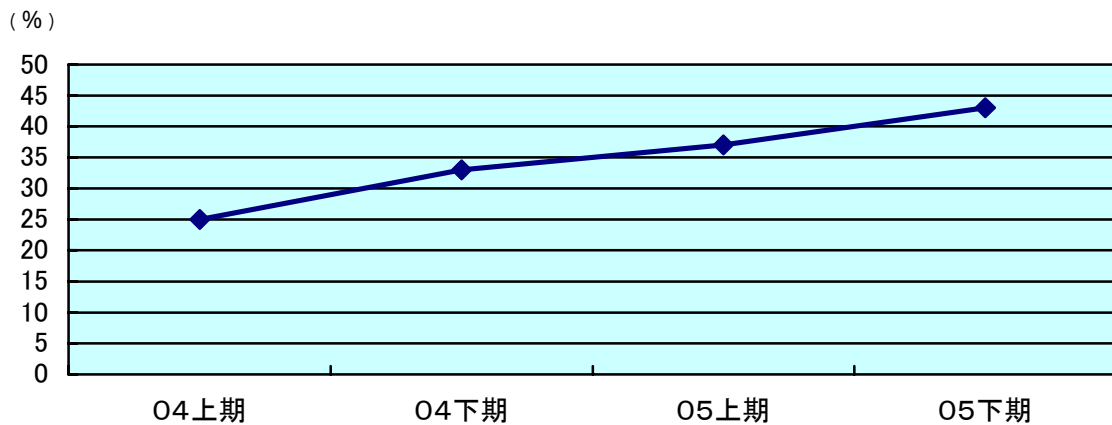
8. 各事業別戦略



9. 2005年度 収益力確保のための施策



中国生産比率の推移（予想）



以 上